

平成 24 年 4 月 19 日
独立行政法人国民生活センター

消費生活センター等の依頼に基づいて実施した商品テスト結果をご紹介します。

発火した IH キッキングヒーター用汚れ防止マット

1. 依頼内容

「IH キッキングヒーターのトッププレート上に汚れ防止マットを置き、鍋を使用していたところ、マットが発火した。危険なので商品に問題がないか調べてほしい。」という依頼を受けました。

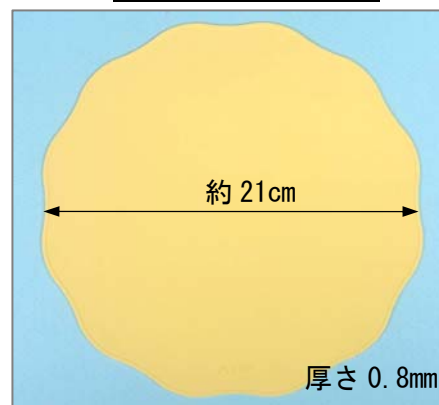
2. 調査

汚れ防止マット（以下、「マット」という）はシリコン製で、IH キッキングヒーターのトッププレート上に敷いて使用することで、トッププレートの焦げ付きや傷を防止できることをうたった商品です（写真 2）。

写真 1 焼損したマット



写真 2 新品のマット



相談者からの申し出をもとに、事故発生時の状況に近い条件（出力約 1.5kW、適度な汚れをマットに付着）で加熱テストを行った結果、マットは発火することはない、焦げや変色も見られませんでした。

さらに加熱を続けて、鍋を空だきにして中の野菜が焦げて発煙するまで加熱を試みたところ、マットからは白色の煙と変色が見られましたが、発火することはありませんでした。このとき、マットのトッププレートに接触する面の温度を測定したところ約 250℃でしたが、

一方で鍋底に接触する面の温度は約 450℃となり、約 200℃の温度差が生じていることから、IH クッキングヒーターが正しく鍋底の温度を検知することができない状態となること分かりました。

次に、IH クッキングヒーターの出力を 3.0kW（最大）にし、マットに汚れを付着させて、鍋を空だきしたときには、空だき後約 5 分でマットから発煙とともに発火が見られました(写真 3)。

なお、マットの取扱説明書には「空だき」を禁止する旨の記載がありました。

写真 3 マットが発火した様子



以上、事故時の使用状況を模したテストではマットの発火は見られませんでした。しかし、マットを使用すると IH クッキングヒーターの温度検知機能に支障をきたすこと、マットに汚れが付着しているときに高い出力で空焚きをすると発火する場合があること、さらに、IH クッキングヒーターの取扱説明書ではマットの使用は禁止していることから（図 1）、IH クッキングヒーターで当該商品を使用することは好ましくないと考えられました。

図 1 取扱説明書記載の禁止事項(IH クッキングヒーター)

使用中(調理中)・使用後は

- 使用中や使用後しばらくはトップレートやグリルドアおよび庫内などの高温部に触れない
- 鍋・鍋の取っ手などの高温部に触れない
- 炒めもの・焼きものなど、少量の油を入れて予熱するときや、予熱の後で油を入れて調理するときは、そばを離れたり、加熱し過ぎない
使用する油の量が少ないため油温が急激に上がり、発火するおそれがあります。加熱し過ぎないように火力をこまめに調節してください。
- 市販の電磁調理器カバー※を使わない
安全機能が正しく働かない原因となります。
※トップレートの上のせて、その上で調理をすることでトップレートの汚れを防ぐものです。

3. 解決内容等

依頼センターから販売店に対しテスト結果の説明を行ったところ、関連部署にテスト結果を報告し、これからの商品取り扱いに生かしていくとの回答がありました。

なお、製造事業者からは表示および材質の改善を予定していると回答がありました。

本件問い合わせ先

商品テスト部：042-758-3165

<title>発火した IH クッキングヒーター用汚れ防止マット（相談解決のためのテストから No. 20） </title>